

2 0 2 5 年度 数学科				年間授業計画表		
科目名	数学ⅠA演習		単位数	4	学年・類型	3年 文系・選択
担当者		使用教科書	高等学校 数学ⅠA (数研出版)		副教材	リンク数学演習ⅠA(数研出版)
科目の目標 (指導目標)	・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。					
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨						
①知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。					
②思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。					
③主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。					
評 価 方 法						
記述の点検，確認，分析、行動の点検，確認，分析 (定期テスト，小テスト，課題レポートやその他提出物等への取組状況，授業への取組状況 等)						
学 習 指 導 計 画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1学期	【数学Ⅰ】 ・数と式 ・集合と命題 ・2次関数 ・図形と計量 ・データの分析	数学ⅠA全範囲	・演習を通して、これまでに学んだ内容を復習し、教科書例題レベルの問題を確実に解く技能を身に付ける。 ・計算技能を高めるとともに、事象に対して道筋を立てて考える能力を身に付ける。	○	○	○
	【数学A】 ・場合の数と確率 ・図形の性質			○	○	○
2学期前半	数学ⅠA (総合演習)		・看護系専門学校・大学等の入試問題集を利用し、各自の目標にあわせた技能を活用する姿勢と思考力・判断力を身に付ける。 ・計算技能を高めるとともに、事象に対して道筋を立てて考え、論理的に判断し表現する能力を身に付ける。		○	○
			・大学入試問題集を利用し、入試頻出の解法が必要な問題、総合的な力を試す問題を中心に扱い、演習を通して、入試に必要な技能を活用する態度と思考力・判断力を身に付ける。 ・数学的思考力を高め、論理的に判断、表現する能力を身に付ける。		○	○
2学期後半・3学期	数学ⅠA (マーク式演習)		・マーク式問題演習を通して、これまで身に付けた知識・技能を適切かつ迅速に活用する能力を高める。		○	
留意事項		演習は予習が前提の授業です。予習は、問題解決に向かって、既習事項を活用したり、出題者の意図を読み取ったりしながら、自ら試行錯誤する学習姿勢が不可欠です。数学の問題の答えは1つですが、解法は様々あります。他人が作成した解法を安易にまねる学習方法では、理系入試に対応する学力は身につけません。必要に応じてテキストを購入します。				

2025 年度 数学科				年間授業計画表		
科目名	数学B・数学ⅠⅡABC演習		単位数	1・3	学年・類型	3年 文系・選択
担当者		使用教科書	高等学校 数学ⅠⅡABC (数研出版)		副教材	クリアー数学B・チャート式B リンク数学演習ⅠⅡABC(数研出版)
科目の目標 (指導目標)	・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。					
評価の観点とその趣旨						
① 知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。					
② 思考・判断・表現	大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力を身に付けている。 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。					
③ 主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。					
評価方法						
記述の点検，確認，分析、行動の点検，確認，分析 (定期テスト，小テスト，課題レポートやその他提出物等への取組状況，授業への取組状況 等)						
学習指導計画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1学期前半	【数学B】 第2章 統計的な推測	第1節 確率分布	・確率変数と確率分布について理解し，期待値や分散，標準偏差などを求めることを通じて，分布の特徴を把握できるようにする。また，連続型確率変数についても理解し，正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できる。	○	○	
		第2節 統計的な推測	・母集団と標本，標本平均について理解し，特に標本平均については，それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できる。また，母平均や母比率の推定，正規分布を用いた仮説検定ができるようにし，それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。	○	○	○
1学期後半	数学ⅠⅡABC (総合演習)	数学ⅠⅡABC 全範囲	・教科書レベルから章末レベルの問題・入試頻出の解法が必要な問題を中心に扱い、演習を通してこれまで学んだ内容の理解を深め、入試に必要な技能を身に付ける。 ・計算技能を高めるとともに、事象に対して筋道を立てて考え、論理的に判断する能力を身に付ける。	○	○	
2学期前半	数学ⅠⅡABC (総合演習)		・大学入試問題集を利用し、入試頻出の解法が必要な問題、総合的な力を試す問題を中心に扱い、演習を通して、入試に必要な技能を活用する態度と思考力・判断力を身に付ける。 ・数学的思考力を高め、論理的に判断、表現する能力を身に付ける。		○	○
2学期後半	数学ⅠⅡABC (総合演習) (マーク式演習)		・大学入試問題集を利用し、入試頻出の解法が必要な問題、総合的な力を試す問題を中心に扱い、演習を通して、入試に必要な技能を活用する態度と思考力・判断力を身に付ける。 ・数学的思考力を高め、論理的に判断、表現する能力を身に付ける。 ・マーク式問題演習を通して、これまで身に付けた知識・技能を適切かつ迅速に活用する能力を高める。		○	○
3学期	数学ⅠⅡABC (マーク式演習)		・マーク式問題演習を通して、これまで身に付けた知識・技能を適切かつ迅速に活用する能力を高める。		○	
留意事項		演習は予習が前提の授業です。予習は、問題解決に向かって、既習事項を活用したり、出題者の意図を読み取ったりしながら、自ら試行錯誤する学習姿勢が不可欠です。数学の問題の答えは1つですが、解法は様々あります。他人が作成した解法を安易にまねる学習方法では、理系入試に対応する学力は身につけません。必要に応じてテキストを購入します。				

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	化学基礎演習	2	3	文系

使用教科書	副教材等
化学基礎（数研出版）	新編アクセス化学基礎（浜島書店） 大学入学共通テスト対策 チェック&演習化学基礎（数研出版）

科目の目標
物資とその変化に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して，物資とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	化学に関する事物・現象について，基本的な概念や，原理・法則を理解し，科学的に探究する方法を身に付けている。
②思考・判断・表現	化学的な事物・現象に問題を見出し，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。
③主体的に学習に取り組む態度	化学的な事物・現象に関心や探究心をもち，それらに主体的に関わるとともに，科学的態度を身に付けている。
評価方法	
① 各種テストの知識を問う問題への解答 ② 各種テストの思考・表現を問う問題や各单元ごとの課題における解答 ③ 課題に対する自主的な取組状況	

学習計画						
月	单元名	使用教科書項目	单元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学期 前半	知識の確認	第1編 物質の構成と化学結合 ・物質の構成 ・物質の構成粒子 ・粒子の結合	・構成粒子の違いによる物質の違いを確認できている。 ・混合物と単体、化合物の違い、分離の方法と原理を確認し、原子の構造や電子配置、分子式、イオン式、組成式が確実に書ける。 ・結合の種類と特徴を確実に区別できる。 ・分子間の結合によってできる物質の性質の違い、金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質を確認できている。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	 ○
	中間試験			○	○	
1 学期 後半	知識の確認	第2編 物質の変化 ・物質と化学反応式 ・酸と塩基の反応 ・酸化還元反応	・物質と溶液の濃度を正しく表わすことができる。 ・水溶液の液性と強弱、水素イオン濃度、pHについて正しく理解できている。 ・酸と塩基の性質と中和反応の原理について正しく理解できている。 ・酸化と還元が電子の授受によることを正しく理解できている。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	 ○ ○
	期末試験			○	○	

2 学 期 前 半	計算問題対策	・物質量の計算 ・水溶液の濃度の計算 ・中和の量的関係 ・水溶液のpH ・酸化還元反応の量的関係	・水溶液の濃度、中和反応や酸化還元反応の量的関係を確実に理解できている。 ・計算問題にていねいに取り組み、様々な解答方法を試みることで、確かな計算力が身に付いている。	○	○	
	中間試験			○	○	
2 学 期 後 半	実験・グラフ問題対策	・実験操作と取り扱い ・気体の発生 ・グラフ問題	・実験に関する必要な知識を整理し、グラフや資料と合わせながら考察することができる。	○	○	○
	期末試験			○	○	
3 学 期	思考問題	総合問題	・データやグラフを用いた分析問題に取り組み、思考力を身に付けている。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	生物基礎演習	2	3	文系生物基礎選択者

使用教科書	副教材等
生物基礎（数研出版）	スクエア最新図説生物（第一学習社） チェック&演習生物基礎（数研出版）

科目の目標
日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、生物学的に探究する態度と能力を育てるとともに、基本的な概念や原理、法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	生物や生物現象について理解をするために、基本的な知識や観察、実験の技能を身につけている。
②思考・判断・表現	生物や生物現象について理解を深めるために、発展的な知識や生物現象が生じる因果関係について考え、表現することができる。
③主体的に学習に取り組む態度	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象と主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身につけている。
評価方法	
① 各種テストの知識を問う問題 ② 各種テストの思考を問う問題 ③ 授業のワークシートへの取り組み状況、記述内容	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4月	序章	顕微鏡観察の基本操作	顕微鏡の操作方法やスケッチの技法を身につける。	○		○
5月	第1章 生物の特徴	生物の多様性と共通性 エネルギーと代謝 呼吸と光合成	生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解する。生命活動にはエネルギーが必要であることを理解する。呼吸や光合成の過程でATPが合成されることを理解する。	○	○	
6月 7月	第2章 遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とDNA 遺伝情報の複製と分配 遺伝情報の発現	DNAは2本のヌクレオチド鎖からなる二重らせん構造をしていることを理解する。タンパク質のアミノ酸配列は、DNAの塩基配列によって決まることを理解する。	○	○	○
9月 10月	第3章 ヒトの体内環境の維持	体内での情報伝達と調節 体内環境の維持のしくみ 免疫のはたらき	体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。ホルモンと自律神経のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。からだに異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。	○	○	○

11月	第 4 章 生物の多様性と生態系	植生と遷移	植生の成りたちや相観について理解する。世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。生物どうしの関係が種多様性の維持にかかわっていることを理解する。生態系がもつ復元力について理解する。	○	○	○
12月		植生の分布とバイオーム				
1月		生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全				

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	地学基礎演習	2	3	文系 地学基礎選択者

使用教科書	副教材等
地学基礎（数研出版）	リードα 地学基礎（数研出版） チェック&演習 地学基礎（数研出版）

科目の目標
発展的な問題の演習等を通して、「地学基礎」の目標・内容に示された能力と態度を育てる。 地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を身に付ける。

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。
②思考・判断・表現	演習問題を通して、観察、実験の手順や注意点を学習し、科学的に探究する力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けている。
評価方法	
① 各種テストの知識を問う問題、観察、実験での実験操作 ② 各種テストの思考を問う問題、課題や観察、実験のレポート ③ 観察実験の参加、観察実験のレポートなど	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4月 5月	第1編 活動する地球	地球の構造 プレートの運動 地震 火山	地球の形の特徴と大きさを理解する。地球内部の層構造とその状態を理解する。プレートの運動について理解し、大地形の形成と地質構造を説明できる。火山活動と地震発生の仕組みを理解する。	○	○	○
5月 6月	第2編 移り変わる地球	地層の形成 古生物の変遷と地球環境	資料から地層の構造を理解し、特徴を説明できる。地質時代が古生物の変遷に基づいて区分されることを理解する。地球環境の変化に関する資料に基づいて、大気の変化と生命活動の相互のかかわりを見出して理解し、説明できる。	○	○	○
6月 7月	第3編 大気と海洋	地球の熱収支 大気と海水の運動	大気の特徴を見出して理解する。太陽放射と地球放射が釣り合っていることを理解する。大気と海洋の大循環について理解し、地球規模で熱輸送が行われていることを説明できる。	○	○	○
9月	第4編 地球の環境	地球の環境と 日本の自然環境	地球環境の変化を見出して仕組みを理解し、それらの現象と人間生活のかかわりについて説明できる。日本の自然環境を理解し、恩恵や災害について説明できる。	○	○	
10月 11月	第5編 太陽系と宇宙	太陽系と太陽 宇宙の誕生	宇宙の誕生と歴史について理解する。太陽の誕生とエネルギー源について理解する。生命を生み出す特徴を兼ね備えた地球の特徴を理解し、説明できる。	○	○	
12月 1月	全範囲		既習範囲の復習を通して、地球や地球を取り巻く環境についての理解を深める。	○	○	

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	体育	3	3年	

使用教科書	副教材等
現代高等保健体育（大修館701）	現代高等保健体育・図説現代高等保健体育（大修館701）

科目の目標
体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	- 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の多様性や体力の必要性について理解している。 - 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動が豊かに継続することができるようにするための技能を身に付けている。
②思考・判断・表現	自己や仲間の課題や豊かなスポーツライフを継続するための課題を発見し、 - 合理的、計画的な解決に向けて思考し判断する力を身に付けている。 - 解決の仕方や気付いたこと等について自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、 - 公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を高めようとしている。 - 健康・安全を確保したり、運動を主体的に取り組もうとしている。

評価方法
- 運動の知識・技能の点検、確認、分析（ルール等の小テスト、スキルテスト、発表会、学習プリント・ノート等） - 記述の点検、確認、分析（学習プリント・ノート、グループワーク等） - 行動の観察、確認（グループ活動の姿勢、安全性の確保、授業への取組状況 等）

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 (集団行動、体ほぐし)	集合、整頓、列の増減、方向変換などの仕方を理解し、行動できる。	○		
			定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることを理解できる。	○		
			いろいろな体ほぐしの運動を行うことを通して、気付いたり、仲間と関わりあったりしている。		○	
			集団行動や体ほぐし運動を主体的に取り組むとともに、健康・安全を確保し活動している。			○

5	陸上競技	100M走	記録の向上につながる動きのポイントを理解し、技術と関連させた運動や練習を継続して行うことができる。	○		
		三段跳び				
		砲丸投げ（男子）	合理的なフォームを身に付けることで記録の向上を図ることができる。	○		
		ソフトボール投げ（女子）	自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。		○	
6			主体的に取り組むとともに、結果を冷静に受け止め、課題解決に向けて、お互いに助け合い、教え合おうとしている。			○
		ゴール型	各種目で用いられる技術の名称やポイントを理解し、それぞれの技術を実践することができる。	○		
		サッカー（男子）	合理的な動きと自己の動きを比較して、成果や改善すべきポイントを見付けることができる。		○	
		ネット型				
7	球技	バレーボール（女子）	主体的に取り組むとともに、事故防止の心得を遵守し健康・安全を確保している。			○
9	体づくり運動	新体力テスト	運動には体力向上の原則があることを理解し、運動のねらいやバランスを考え、自分にあった運動を計画し取り組むことができる。	○		
		体力を高める運動	運動のねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定することができる。		○	
			主体的に取り組むとともに、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保すること。			○
	体育理論		豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解すること。	○		
			豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。		○	
			豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組むこと。			○
10	球技	ゴール型	球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	○		
		サッカー（男子）	安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	○		
		ネット型				
		バレーボール（女子）	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。		○	
11			主体的に取り組む、互いに助け合い、教え合おうとしている。			○
12	選択球技	バスケットボール	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて理解している。	○		
		バレーボール	役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。			
		バドミントン	選択した球技について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。		○	
		卓球	球技の学習に主体的に取り組もうとしている。			○
1		ソフトテニス				
		サッカー				

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	スポーツⅡ	2	3年	文系・選択

使用教科書	副教材等
現代高等保健体育（大修館701）	現代高等保健体育・図説現代高等保健体育（大修館701）

科目の目標
体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。 (2) 球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 (3) 球技の学習に主体的に取り組むとともに、全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	・スポーツを多様に実践するための事項を理解することができる。 ・スポーツを通してスポーツを推進及び発展するための事項を理解することができる。 ・スポーツの多様な楽しさや喜びを深く味わうための技能を身に付けることができる。
②思考・判断・表現	・練習やゲームを行う場面で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について提案している。 ・チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案している。
③主体的に学習に取り組む態度	・公正、協力、責任などのスポーツの持続可能性及び規範を遵守する社会の創造に寄与する学習に主体的に取り組もうとしている。 ・多様性・共生などのスポーツを通じた共生社会の実現に寄与する学習に主体的に取り組もうとしている。

評価方法
・運動の知識・技能の点検、確認（観察） ・発言の点検、確認、分析（グループワーク等） ・行動の観察、確認（グループ活動の姿勢、安全性の確保、授業への取組状況等）

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	ネット型	バドミントン	ボールや用具の操作では、サービス、レシーブ、スマッシュ、カットなどの技能を用いて、返球等の場所をコントロールしたり緩急や前後への空間への返球などができるようにする。	○		
			発見した動きの改善点や、効果的な改善策について、活動場面で判断し仲間に伝えている。 チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について提案している。		○	
			ルールやマナーを大切に、互いに助け合って高め合おうとしている。 卒業後においてスポーツを通じた多様なかわりを継続できるよう意欲的に取り組もうとしている。			○

6 7	ネット型	バレーボール	ボールや用具の操作では、サービス、レシーブ、スマッシュ、カットなどの技能を用いて、返球等の場所をコントロールしたり緩急や前後への空間への返球などができるようにする。	○		
			発見した動きの改善点や、効果的な改善策について、活動場面で判断し仲間に伝えている。 チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について提案している。		○	
			ルールやマナーを大切にし、互いに助け合って高め合おうとしている。 卒業後においてスポーツを通じた多様なかかわりを継続できるよう意欲的に取り組もうとしている。			○
9 10	ターゲット型	ゴルフ	標的までの距離や方向、ボール等のスピードや回転をコントロールすることができるようにする。	○		
			発見した動きの改善点や、効果的な改善策について、活動場面で判断し仲間に伝えている。 チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について提案している。		○	
			ルールやマナーを大切にし、互いに助け合って高め合おうとしている。 卒業後においてスポーツを通じた多様なかかわりを継続できるよう意欲的に取り組もうとしている。			○
11 12	ゴール型	サッカー	ボール操作の動きでは、ドリブルやパス、ボールを保持したランニングなどによってボールを保持したり相手をかかわしたりして攻防を展開できるようにする。	○		
			発見した動きの改善点や、効果的な改善策について、活動場面で判断し仲間に伝えている。 チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について提案している。		○	
			ルールやマナーを大切にし、互いに助け合って高め合おうとしている。 卒業後においてスポーツを通じた多様なかかわりを継続できるよう意欲的に取り組もうとしている。			○
1	ゴール型	バスケットボール	ボール操作の動きでは、ドリブルやパス、ボールを保持したランニングなどによってボールを保持したり相手をかかわしたりして攻防を展開できるようにする。	○		
			発見した動きの改善点や、効果的な改善策について、活動場面で判断し仲間に伝えている。 チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について提案している。		○	
			ルールやマナーを大切にし、互いに助け合って高め合おうとしている。 卒業後においてスポーツを通じた多様なかかわりを継続できるよう意欲的に取り組もうとしている。			○

2025年度 芸術科 年間授業計画表						
科目名	硬筆A	単位数	2	学年・類型	3年（選択者のみ）	
担当者		使用教科書	ペン字のレッスン1：入門	副教材	硬筆レッスン帳	
科目の目標 (指導目標)	文字を美しく整えて書くことに関する知識や技術を習得し、日常生活に幅広く役立てる能力を育てる。					
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨						
① 知識・技能	硬筆の書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。硬筆の書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。					
② 思考・判断・表現	それぞれの筆記用具のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。					
③主体的に学習に取り組む態度	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。					
評 価 方 法						
記述の点検、確認、分析 行動の点検、確認、分析 (テスト、課題レポートやその他提出物等への取り組み状況、授業への取り組み状況 等)						
学 習 指 導 計 画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期 前 半	ひらがなの線はどう書くか カタカナ 漢字の線あれこれ	横にのばす線、縦に伸ばす線、 左右にまわる線 横画、縦画、右はらい、 左はらい、はね、折れ、点	ひらがなは、長い年月をかけて、漢字の草書体から発展した日本独自の文字なので、やさしい曲線の特長を表現する。	○	○	
1 学 期 後 半	整った字形にするために 漢字の部首の分別	文字の外型斜めになる型 逆三角形になる型の文字	字形のとり方に注意、字の編、旁等のバランスを整えて書く。 自主的に考え、着実にやりぬく強い意志を持つ。	○		○
2 学 期 前 半	漢字かな交じりの文 (俳句、ことわざ)	俳句、ことわざ、短文、 横書き	一行一行の流れに注意しながら、調和よく書く。 漢字はやや大きめ、かなは小さめに気を配り、漢字と調和させる。	○	○	
2 学 期 後 半	続ける字（行書） 書き方の基本 美しい言葉を書く 筆ペンで表書き (祝儀袋等)を書く	楷書、行書のちがい 三字語 筆ペンの使い方	楷書に比べて流動的なので、速度が速くなり、リズム感を出す。 さまざまな見方を理解して、寛容の心を持ち、謙虚に学ぶ。	○		○
3 期 学	漢字かな交じりの文 はがきの書き方	詩、短歌、短文 年賀状、お礼状	昔から知られた有名な文章を理解し、硬筆の技術を活用し、書けるようにする。 自立の精神を重んじ、自主的に考え着実にやりぬく意志を持つ。	○	○	○
留意事項		筆記用具は鉛筆、万年筆、ボールペン、筆ペンを使用する。その他ノートや専用の下敷を必要とするため、用具は4月に一括で購入する。（使いやすい用具を各自で用意しても良い）				

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語科	英語コミュニケーションⅠ 演習	4	3年	全 員

使用教科書	副教材等
FLEX English Communication Ⅰ (増進堂)	長文演習問題集、Vintage、速読英単語 他

科目の目標
(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
知識・技能	受け身の不定詞や複合関係代名詞など、本書で学習する文法に加えて、語彙や表現などの用法や意味を理解している。また、報告文や新聞記事などの多様な英文から情報を読み取り、整理しながら理解したり、自身の考えや意見を学習した語句や文を適切に活用して、発信したりする技能を身につけている。
思考・判断・表現	日常的、社会的な話題の説明を聞いたり読んだりして、情報や考えなどの概要や要点を的確に捉えている。また、本書で学習した内容について、自身の考えや意見を明確な理由や根拠とともに、詳しく伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	日常的、社会的な話題についての内容を理解しようとしている。また、学習した内容を相手に配慮しながら、主体的、自律的に伝えようとしている。理解した情報ややり取りをした内容について効果的な理由や根拠とともに、まとまりのある文章を書こうとしている。 継続的な学習や活動の成果、結果から自身でフィードバックを行い、個々の目標達成に応じて改善を試みようとしている。

学習と評価の計画																	
時期	単元	単元の目標					総括のための観点別学習状況の評価の記録					評価場面	評価方法				
		主な領域			CE FR	主な領域において何ができるようになるのか	L	R	I	P	W						
		CAN=DO ID															
		領域	NO	記号													
1 学期 前半	L1	LI	1	ア	A2	・旅行に関する記事を正確に読み取ることができる。 ・And/orが結びつける内容をとらえることができる。 ・資料を扱う文章で用いられる語句を使い表現することができる。					思態		知思態			授	PFT
	L2	W	1	ア	A2	・環境問題に関する記事を正確に読み取ることができる。 ・動詞の過去形と過去分詞形の違いを識別することができる。 ・資料を扱う文章で用いられる語句を使い表現することができる。						知思			知思	他	PT
1 学期 後半	L3	R	1	イ	A2	・登場人物の心理を正確に読み取ることができる。 ・文章を定められた字数で要約することができる。 ・資料を扱う文章で用いられる語句を使い表現することができる。						知思態				定	PT
	L4	P	1	イ	A2	・衣食住に関する記事を正確に読み取ることができる。 ・次に出てくる英文の形を予測しながら読むことができる。 ・本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。						知思		知思態		授	PT/PFT
2 学期 前半	L5	R	2	イ	B1	・人体に関する記事を読み、正確に読み取ることができる。 ・イラストと英文を正確に結びつけることができる。 ・本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。						知思態				定	PT
	L6	LI	2 3	イ	B1	・宇宙工学に関する記事を読み、正確に読み取ることができる。 ・指示された語数で英文要約することができる。 ・本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。					思態			知思態		授	PFT

2 学期 後半	L7	R	2	イ	B1	・発音の違いに関する記事を読み、正確に読み取ることができる。 ・指示された語数で日本語で要約することができる。 ・本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。		知思態					定	PT
	L8	W	3	ア	B1	・商業やサービスに関する記事を読み、正確に読み取ることができる。 ・トピックセンテンスやキーフレーズを理解することができる。 ・本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。		知思			知思		定・他	PT
3 学期	L9	R	2	イ	B1	・生物学に関する記事を読み、正確に読み取ることができる。 ・説明文中で使われる分詞構文を理解することができる。 ・本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。		知思態					定	PT
	L10	R	2	イ	B1	・お茶の歴史に関する記事を読み、正確に読み取ることができる。 ・文の書き出しに着目して内容把握することができる。 ・本文に出てきた語句の意味を理解し、正しく発音することができる。		知思態					定	PT

※総括のための観点別学習状況の評価の記録：知（知識・技能）、思（思考・判断・表現）、態（主体的に学習に取り組む態度）

※評価場面：授（授業内）、定（定期テスト等）、他（課題内容等）

※評価資料：PT（ペーパーテスト等）、PFT（パフォーマンステスト）、PT/PFT（ペーパーテスト等及びパフォーマンステスト）

備考欄

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語	論理・表現Ⅱ	2	3	全 員

使用教科書	副教材等
be English Logic and ExpressionⅡ Smart (いいずな書店)	演習問題集、リスニング問題集、vintage 他

科目の目標
言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。

評価の観点とその趣旨	
知識・技能	習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。
思考・判断・表現	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。

学習と評価の計画													
時期	単元	単元の目標					総括のための観点別学習状況 の評価の記録					評価 場面	評価 方法
		主な領域			CE FR	主な領域において何ができるようになるのか	L	R	I	P	W		
		CAN-DO	ID										
		領域	NO	記号									
1 学期 前半	L10	P	3	イ	B1	・比較表現を正しく用いて表現することができる。 ・日本を紹介することについて話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。				知思態		授・定	PT
	L11	W	3	イ	B1	・仮定法を正しく用いて表現することができる。 ・イノベーションについて話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。				知思態		授・定	PT
	L12	I	3	イ	B1	・that節や語法などを正しく用いて表現することができる。 ・多様性を受け入れる社会について話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。			知思態			授・定・他	PT/PFT
1 学期 後半	L13	P	3	イ	B1	・存在や変化を表す表現を正しく用いて表現することができる。 ・観光と日本社会について話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。				知思態		授・定	PT
	L14	W	3	ア	B1	・使役動詞や知覚動詞を正しく用いて表現することができる。 ・食と健康について話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。				知思態		授・定	PT
	L15	I	3	イ	B1	・英語らしい表現方法を正しく用いて表現することができる。 ・世界が抱える問題とSDGsについて話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解する姿勢がみられる。			知思態			授・定・他	PT/PFT
2 学期 前半	U1	W	3	イ	B1	・既習事項を用いて与えられたテーマに沿って正しく表現することができる。					知思態	授・定・他	PT
	U2	W	3	イ	B1	・既習事項を用いて与えられたテーマを正しく理解することができる。					知思態	授・定・他	PT

	U3	W	3	イ	B1	・既習事項を用いて与えられたテーマに沿って正しく表現することができる。					知思態	授・定・他	PT
2 学期 後半	U4	W	3	イ	B1	・既習事項を用いて正しく聞き取り、状況に応じて表現することができる。	知思態				知思態	授・定・他	PT
	U5	W	3	イ	B1	・既習事項を用いて与えられたテーマを正しく理解することができる。					知思態	授・定・他	PT
	U6	W	3	イ	B1	・既習事項を用いて与えられたテーマに沿って正しく表現することができる。					知思態	授・定・他	PT
3 学期	U7	W	3	イ	B1	・既習事項を用いて正しく聞き取り、状況に応じて表現することができる。					知思態	授・定・他	PT

※総括のための観点別学習状況の評価の記録：知（知識・技能）、思（思考・判断・表現）、態（主体的に学習に取り組む態度）

※評価場面：授（授業内）、定（定期テスト等）、他（課題内容等）

※評価資料：PT（ペーパーテスト等）、PFT（パフォーマンステスト）、PT/PFT（ペーパーテスト等及びパフォーマンステスト）

備考欄

--

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語	論理表現ⅠⅡ演習	4	3	3年文系

使用教科書	副教材等
be English Logic and ExpressionⅡ Smart (いいずな書店)	総合問題集、リスニング問題集、Vintage 他

科目の目標 言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。

評価の観点とその趣旨	
知識・技能	習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。
思考・判断・表現	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。

学習と評価の計画													
時期	単元	単元の目標				総括のための観点別学習状況 の評価の記録	評価 場面	評価 方法					
		主な領域			主な領域において何ができるようになるのか								
		CAN-DO	ID	CE									
		領域	NO	記号	FR								
1 学 期 前 半		P	3	イ	B1	・ 様々な英文に触れ、背景知識を広げる。 ・ 論説文の読み方を理解する。 ・ パラグラフの構成を理解する。				知思態		授 ・ 定	PT
		W	3	イ	B1	・ 様々な英文に触れ、背景知識を広げる。 ・ 論説文の読み方を理解する。 ・ つなぎの語句を用いてパラグラフを書けるようになる。					知思態	授 ・ 定	PT
		I	3	イ	B1	・ 様々な英文に触れ、背景知識を広げる。 ・ 論説文の読み方を理解する。 ・ パラグラフの構成を理解し日本語で要約する。				知思態		授 ・ 定 ・ 他	PT/PFT
1 学 期 後 半		P	3	イ	B1	・ 様々な英文に触れ、背景知識を広げる。 ・ 論説文の読み方を理解する。 ・ パラグラフの構成を理解し英語で要約する。				知思態		授 ・ 定	PT
		W	3	ア	B1	・ 様々な英文に触れ、背景知識を広げる。 ・ 随筆の読み方を理解する。 ・ パラグラフの構成を理解する。					知思態	授 ・ 定	PT
		I	3	イ	B1	・ 様々な英文に触れ、背景知識を広げる。 ・ 随筆の読み方を理解する。 ・ つなぎの語句を用いてパラグラフを書けるようになる。				知思態		授 ・ 定 ・ 他	PT/PFT
2 学 期 前 半		W	3	イ	B1	・ 様々な英文に触れ、背景知識を広げる。 ・ 随筆の読み方を理解する。 ・ パラグラフの構成を理解し日本語で要約する。					知思態	授 ・ 定 ・ 他	PT
		W	3	イ	B1	・ 様々な英文に触れ、背景知識を広げる。 ・ 随筆の読み方を理解する。 ・ パラグラフの構成を理解し英語で要約する。					知思態	授 ・ 定 ・ 他	PT

		W	3	イ	B1	・様々な英文に触れ、背景知識を広げる。 ・図やグラフの読み方を理解する。 ・パラグラフの構成を理解する。					知思態	授・定・他	PT
2 学期 後半		W	3	イ	B1	・様々な英文に触れ、背景知識を広げる。 ・図やグラフの読み方を理解する。 ・つながりの語句を用いてパラグラフを書けるようになる。	知思態				知思態	授・定・他	PT
		W	3	イ	B1	・様々な英文に触れ、背景知識を広げる。 ・図やグラフの読み方を理解する。 ・パラグラフの構成を理解し日本語で要約する。					知思態	授・定・他	PT
		W	3	イ	B1	・様々な英文に触れ、背景知識を広げる。 ・図やグラフの読み方を理解する。 ・パラグラフの構成を理解し英語で要約する。					知思態	授・定・他	PT
		W	3	イ	B1	・様々な英文に触れ、背景知識を広げる。 ・大学などの論文の読み方を理解する。 ・論文の構成を理解し日本語で要約する。					知思態	授・定・他	PT
3 学期		W	3	イ	B1	・様々な英文に触れ、背景知識を広げる。 ・時事英語の読み方を理解する。 ・時事英語を理解し英語で要約する。					知思態	授・定・他	PT

※総括のための観点別学習状況の評価の記録：知（知識・技能）、思（思考・判断・表現）、態（主体的に学習に取り組む態度）

※評価場面：授（授業内）、定（定期テスト等）、他（課題内容等）

※評価資料：PT（ペーパーテスト等）、PFT（パフォーマンステスト）、PT/PFT（ペーパーテスト等及びパフォーマンステスト）

備考欄

--